

## 1 研究概要

### (1) 研究主題

#### 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の構築

～すべての子どもの可能性を引き出す複線型の授業づくりを目指して～（2/3年次）

### (2) 主題設定の理由

令和3年度から5年度までの3年間、「すべての学びの質を高める授業の構築 ～すべての子どもの主体性を引き出す指導の展開～」という研究テーマのもと、授業改善の在り方について追究するとともに、授業公開等を通して研究内容の普及啓発に努めてきた。

その3カ年計画で推進した研究を通して、以下のような成果と課題が得られた。

#### 【成果】

- 導入の場面で子どもに問題場면을視覚的に捉えさせ、問題解決における見通しをもたせたことにより、個人思考が充実し、集団思考において広がりや深まりを実現させることができた。  
(問題場面の設定や課題提示の工夫)
- 既習と関連付けて本時のめあてを子どもと共有することで、めあてに正対したまとめや振り返りにつなげるなど、学習過程の充実が図られた。  
(見通しと振り返りの充実)
- 1人1台端末を利用することで、他のグループの考え方から新たな見方に気付くなど、個別と協働の活動を往還する場면을充実させることができた。  
(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)

#### 【課題】

- 単元のねらいを踏まえ、単元の指導計画を活用して指導と評価を一体化させるとともに、単元を通して学ぶ道筋を明確にするなど、子どもの主体性を高めるよう工夫する必要がある。  
(主体的な学びの実現)
- 育成を目指す資質・能力の実現に向けては、単元を通じた学びの道筋を明確にすることが大切であることから、指導と評価の一体化をより一層推進する必要がある。  
(子どもの実態に応じた重点的な指導や評価等の工夫について)
- 個人で考えたことを意見交換したり議論したりすることで、新たな考え方に気付いたり、自分の考えをより妥当なものにしたりするなど、協働的な学びの充実を図る手立てをより一層検証する必要がある。  
(多様な他者と協働する場面の設定について)

これらの成果と課題を受け、函館市の教育が目指す子どもの具現化に向けて「主体的な学び」の充実をより一層推進するとともに、子どもの学びの過程のさらなる質的向上を図っていく必要があることから、令和6年度からの3カ年は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりおよび学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた、より実践的な研究を構築したいと考える。

また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためには、GIGAスクール構想の推進のもと、ここ数年で環境整備が整った1人1台端末の、これまでにない量と質のデータを取り扱うことができるよさを生かし、個々の特性等に合った多様な方法で子どもが学習を進めることができる可能性を最大限に発揮することは、欠かすことができない視点である。

そこで、子どもが主体的に1人1台端末を活用しながら、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせ、各教科における学習の過程を繰り返し、概念的知識や思考力・判断力・表現力等の高次元資質・能力を身に付けていくことを通して、学習指導要領改訂の基本方針の1つである「生涯にわたって能動的に学び続ける」力を育成することを目指し、各教科における学習過程の質的向上および学習指導の在り方について研究を深めていきたいと考え、本研究主題を設定した。

とりわけ、学習指導の在り方については、一人一人の子どもが興味・関心等に応じた課題意識を持ち、多様な方法で多様な課題を解決していく学習活動を展開することが重要である。課題に対するアプローチや学び方は一人一人異なることから、その実現のためには、1人1台端末とクラウド環境を学習の基盤にした、複線型の授業のイメージを共有する必要があるなど、「授業観」の転換が必要であることを踏まえ、研究の内容や全体構想図等を作成することとした。

**(3) 研究の目的**

1人1台端末とクラウド環境を学習の基盤とした「授業観」の転換を図ることで、各教科等における学習の過程を踏まえた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を図るとともに、一人一人の子どもの主体性を引き出し、身に付けさせたい資質・能力を確実に育む学習指導の在り方を明らかにして、市内各学校へ普及啓発することを目的とする。

**(4) 研究仮説**

次のような仮説を設定し、研究を推進することとする。

複線型の学びを取り入れた授業を展開し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて各教科等の特質に応じた学習過程の質的改善を図ることで、一人一人の子どもの主体性を引き出し、すべての子どもの確かな学力の向上に結び付けることができるであろう。

**(5) 研究内容**

- 研究内容「複線型の授業づくり」
  - ・ねらいを踏まえた学習課題の提示
  - ・授業のねらいに合わせた複線型の授業の実践と検証
  - ・各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証

**(6) 研究計画**

令和6年度	令和7年度	令和8年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 基礎研究・授業研究</li> <li>◇ 研究計画の作成</li> </ul> <p><b>【研究内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複線型の授業づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通じた評価規準の設定</li> <li>・指導と評価の一体化</li> <li>・1人1台端末を活用した授業づくり</li> <li>・クラウドおよび共同編集の活用</li> <li>・授業の一部に複線型を取り入れた授業づくりの実践と検証</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 専門研修における授業公開と研究内容の普及・啓発</li> <li>◇ 1年次の研究成果と課題の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 理論研究・授業研究</li> <li>◇ 研究計画の見直し</li> </ul> <p><b>【研究内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複線型の授業づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを踏まえた学習課題の提示</li> <li>・授業のねらいに合わせた複線型の授業の実践と検証</li> <li>・各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 専門研修における授業公開と研究内容の普及・啓発</li> <li>◇ 2年次の研究成果と課題の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 理論研究・授業研究</li> <li>◇ 研究のまとめ</li> </ul> <p><b>【研究内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複線型の授業づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証</li> <li>・1人1台端末とクラウドを学習の基盤とした複線型の授業における指導と評価の一体化の実践と検証</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 専門研修における授業公開と研究内容の普及・啓発</li> <li>◇ 3年間の研究成果と課題の整理</li> </ul>

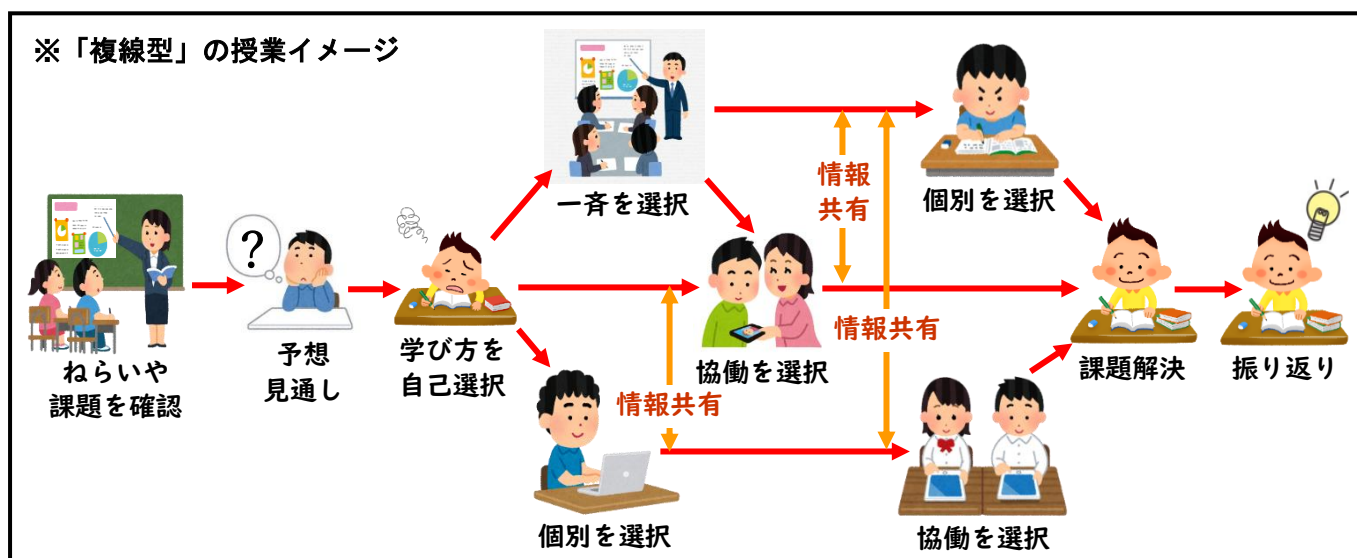
## (7) 「複線型」の授業について

本研究主題に迫るためには、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るうえで重要なツールである1人1台端末の利用について、従前の、授業者がどう使うかという視点だけでなく、クラウド環境を最大限利用し、一人一人の子どもが主体的に活用することが大切な視点となる。

これまでの授業の過程では、一斉に個人思考し、一斉にグループで話し合い、一斉に全体で交流していた。このとき、何がわからないかということもわからない子どもは、ただ発表を聞き、授業を終えていたということがあるのではないだろうか。

しかしながら、1人1台端末の共同編集機能等を活用して、リアルタイムで更新される他者の取組を共有することにより、何がわからないか気付いたり、課題の理解が促されたり、自分のつまずきに気付いたりする機会が格段に増えることが期待できる。練り合いによる高度な成果への期待はいうまでもなく、わからない子どもにとっても、主体的に1人1台端末を活用することのメリットは大きいと考える。

この視点で、課題を解決する場面を想定したとき、まずは一人で課題に向き合いたい子もいれば、最初から他者と相談したい子、自分の考えに納得できてから他者と練り合いたい子、先生にじっくりと説明してもらいたい子等、学び方は様々である。こうした様々な学びの流れがある授業が「複線型」の授業である。



単元全体をデザインする中で、上記の学習形態を取り入れた授業を適宜、適切に位置付け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、すべての子どもの可能性を引き出す授業づくりを目指すこととする。

令和6年度の研究では、一人一人の子どもが興味・関心等に応じた課題意識をもち、1人1台端末を活用しながら、多様な方法で主体的に課題を解決していく学習活動を展開する「複線型の授業」の実践例を示すことができた。

その一方で、課題意識や解決の見通しが十分にもてないまま授業を進めた場合は、複線型の学びが機能しづらかったり、学びが深まりにくかったりするなどの課題が見られたことから、引き続き実践を重ねて、よりよい「複線型の授業」への理解を深めていく必要がある。

本研究テーマは、今年度が3年次計画の2年目であることから、令和6年度の成果と課題を十分に踏まえつつ、複線型の授業のさらなる実践と検証を通して、子どもの学びの質を一層高めるための学習指導の在り方について、引き続き、研究を推進していくこととする。

## 2 授業実践

### 第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年10月30日(木) 第6教時  
児童 5年1組 23名  
指導者 教諭 渡邊 香緒里

1. 単元名 「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」(10時間扱い)  
(「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」)

#### 2. 単元の目標

- (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。  
〔知識及び技能〕(3)オ
- (3) 引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。  
〔思考力、判断力、表現力〕B(1)エ
- (4) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。  
〔思考力、判断力、表現力〕C(1)ウ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。  
〔学びに向かう力、人間性等〕

#### 3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 …(2)ア</li><li>日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。 …(3)オ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>「書くこと」において、引用したり図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 …B(1)エ</li><li>「読むこと」において目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 …C(1)ウ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>資料の効果的な使い方や論の進め方について粘り強く考え、学習の見通しをもって、筆者の工夫を生かしながら、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。</li></ul>

#### 4. 単元について

本単元は、論理的な説明文の資料の使い方や論の進め方を参考にして、表現する力を育む複合単元である。ここでは、日本の固有種を題材とした文章を読み、統計資料と文章を結び付けながら筆者の論の進め方を捉えていく。

単元の前半では、筆者の示す統計資料について、考えたことを話し合いながら自分の考えを整理する。単元の後半では、自分の興味に基づいた環境問題について、統計資料を活用して説得力のある意見文を作成する。5年生前期では、「B 書くこと エ」として「目的に応じて引用するとき」、「C 読むこと ウ」として「新聞を読もう」の学習において、同様の指導事項に基づく学習に取り組んでいる。ここで育んだ力は、第6学年の「B 書くこと エ」の「おすすめパンフレットを作ろう」、「C 読むこと ウ」の「インターネットでニュースを読もう」といった表現活動へと発展していく。

## 5. 児童の実態

授業に意欲的に取り組む児童が多く、見通しがもてる課題に、最後まで諦めずに取り組むことのできる児童が多い。一方、具体的な指示がないと何もできなくなってしまう児童や、指示待ちの受動的な態度から抜け出せない児童が一定数見られる。そのため、授業では一斉指導型だけでなく、児童の主体的な態度を尊重するような授業づくりをするよう心がけてきた。

本学級では、朝の読書タイムにおいて、多くの児童が集中して読書に取り組むなど、全体的に読書に対して高い関心をもっている。また、図書館で積極的に本を借りたり、家庭から持参した本を常に携帯したりしている児童が多く、日常的に読書に親しんでいる様子が見られる。この意欲をさらに引き出すため、本時では子どもたちの発見や気づきを尊重し、本文の内容について意見交換する時間を設け、思考を深める活動を取り入れる。

また、自分の考えを表現することに意欲的な児童がいる一方、自分の考えをまとめることに時間を要する児童もいる。協働的な学習形態を選択することで、安心して質問し、意見交流ができる傾向にある。また特性上、個人で進めることが最も安心して学習できると考える児童もいる。これまで特に意識して指導してきたのは、児童一人一人の各教科等における個人内評価や個人課題を把握し、安心した環境で自信を付けさせることである。

「C 読むこと ウ」に関して、同学年既習単元「新聞を読もう」の学習では、子どもたちは新聞の「逆三角の構成」を知り、地方紙と全国紙では、同じニュースでも目的に応じて記事の内容や資料が異なることに気付くことができた。

「B 書くこと エ」に関して、同学年既習単元「目的に応じて引用するとき」では、同じ資料でも、引用する目的が違えば書き留める部分が違ってくことに注意しながら、原文を正確に引用しながら校外学習の報告文を作成した。

なお、本学級では、日常的にICT機器の活用をしているが、学習活動が複雑化すると、つまづく児童が数名見られる。本時では、資料の効果について根拠をもって示していくという活動の確認を行いながら、取り組む際は、受け手側・書き手側の利点について思考を促すような発問を工夫する。

以上を踏まえて、複線型の学習を取り入れることにより、話し合いの時間を十分に確保しつつ、各自がじっくりと考える時間も児童が選択できるように配慮する。学習形態だけでなく、学習課題、学習進度、まとめ方も自己決定し、個別最適化を進めることで指導の質的改善を図り、資質・能力向上の一助としたい。

## 6. 本研究とのかかわり

本単元では、中心となる目標を達成するために複線型の授業を取り入れる。児童が自らの学習を調整しながら学ぶ授業の構築を目指し、特に以下の点を重視する。

- ・課題意識を高め、解決への見通しをより明確にもつこと
- ・自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤すること
- ・情報過多を避けるため、活動を構造化し、子どもが主体的に選択・探究できる場面を設定すること

※ 本時では、資料の効果分析ビュッフェ的に「どの資料を分析したいか」を決め、個やグループで、その資料がもつ効果や工夫を話し合い、分析結果の共有、短時間で多様な資料の効果に触れることができ、自分が実際に意見文を書く時に参考できるよう設定する。

### <本単元で身に付けさせたい資質・能力>

「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

＜資質・能力を身に付けるために＞

必要度の高い資料を決める場面では、書き手がどのように論を進め、どのような理由や事例を用いて説得力を高めようとしているのかを深く考える。このことを通して、自分の考えをより適切に伝えるための方法を学ぶことができる。

また、児童が自らの学習状況を把握し、試行錯誤しながら学習の進め方を調整するような機会を設定する。これにより、自律的な学びの姿勢を育むことを目指したい。

＜重視したい内容＞

国語科における資質・能力とは、「国語を正確に理解し、適切に表現する力」である。今回の授業では、この資質・能力を育むために、特に「読むこと」に焦点を当てる。

具体的には、目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付けしたり、論の進め方について考えたりする力を重視する。この力を身に付けるためには、文章中の図表がどの部分と結び付いているかを明確にすることが大切である。そうすることで、必要な情報が見付き、論の進め方も捉えられるようになる。さらに、自分にとって重要だと判断した資料の内容や、言葉と言葉の関係を、意味、働き、使い方などに着目して捉え直すことで、言葉への自覚を高める。これにより、「言葉による見方・考え方」を働かせることが可能になる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、自身の課題に応じ、個別・協働・一斉を選択できる複線型の授業を取り入れ、学習過程の質的改善に努める。

7. 単元の計画

時	目標と主な学習活動（・）	【評価規準】（方法） ○…「評定に用いる評価」 ・…「学習改善につなげる評価」
1	<p><b>単元の見通しをもち、学習課題を立てよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元名を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・扉のページを確認し、絵や題名から内容を予想したうえで通読する。</li> <li>・初めて知ったことや興味をもったこと、疑問に思ったことを交流する。</li> </ul>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章と資料の関係などに注意しながら読もうとしている。（発言・記述）</li> <li>・読むことで学習したことを生かして、自分の考えを書くという学習の流れを捉えようとしている。（発言・WS）</li> </ul>
2	<p><b>文章の構成を考えて、おおまかな内容をとらえよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「初め」「中」「終わり」に分け、筆者がどのように考えを述べているかを確認める。</li> <li>・「中」の段落に見出しをつけて内容をおおまかに整理し、前半と後半に分ける。</li> <li>・本文の構造や内容の理解ができたことを踏まえて、要旨をまとめる。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・WS）</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（発言・WS）</li> </ul>
3 本 時	<p><b>資料があると、どんな効果があるだろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用いられている資料を確認し、必要度順を考える。</li> <li>・本文との対応箇所や、その効果「何が」「なぜ」かについてまとめる。</li> <li>・改めて資料を必要度から捉え直し必要度順を完成させる。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（発言・WS）</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、論の進め方を考えようとしている。（発言・WS）</li> </ul>

時	目標と主な学習活動（・）	【評価規準】（方法） ○…「評定に用いる評価」 ・…「学習改善につなげる評価」
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           文章について自分の考えをまとめ、考えたことを伝え合おう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章に対する自分の考えをもち、交流する。</li> <li>・ 図表などが使われている本や新聞記事を探して読み始める。</li> </ul>	<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（観察・発言）</li> </ul> <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の使い方や効果という視点を基にしながら、読んだり考えたりしている。（発言・WS）</li> </ul>
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           自分が選んだ本の感想やよいと思ったところを伝え合おう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の流れを踏まえながら、本を探したり、読んだりする。</li> <li>・ 自然環境や環境問題について書かれた本について感想を伝え合う。</li> </ul>	
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           自分が関心のある環境問題を選び、その問題に合った資料をさがそう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「問いをもとう」を基に、身の回りにある環境問題を確認する。</li> <li>・ 「目標」を基に、「自然環境を守るために」の学習のめあてを確かめる。</li> <li>・ 自分が使う統計資料を選ぶ。</li> </ul>	<b>【思考・判断・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（記述・発言）</li> </ul> <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。（発言・WS）</li> </ul>
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           「初め」「中」「終わり」の文章構成で、自分が書くことを整理しよう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような文章を書くのか確認する。</li> <li>・ 「初め」「中」「終わり」でそれぞれ何を書くのかを考える。</li> <li>・ 構成メモを交流し、アドバイスを伝え合う。</li> </ul>	<b>【思考・判断・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。（記述・発言）</li> </ul>
8 ・ 9	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           構成メモをもとに、自分の考えを文章に書き表そう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作例の工夫を確かめる。</li> <li>・ 構成メモをもとにしながら文章を書く。</li> <li>・ 進捗を確認しながら書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えている。（記述・発言）</li> </ul>
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           書き上げた文章を読み合い、よかったところを伝え合おう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が書いた文章を読み返し、修正点等がないかを確かめる。</li> <li>・ 友達と読み合い、感想を伝え合う。</li> <li>・ よかったところや工夫されていたところを共有する。</li> <li>・ 単元全体を振り返り、感想を書く</li> </ul>	<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（発言・WS）</li> </ul>

8. 本時の学習（3 / 10）

（1）目標

- ・粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、論の進め方を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【思考・判断・表現】

（2）展開

学習過程	児童の活動	教師のかかわり	評価規準（評価方法）*努力を要すると判断される児童への手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を想起する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「固有種が教えてくれること」の文章構造を確かめ、要旨をまとめたことを想起する。</li> </ul> </li> <li>○ 課題</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">資料があると、どんな効果があるだろうか。</div>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料1～7を見て、必要度の高い資料ランキングを作る。</li> <li>○ グループで意見交流し、自分の考えたランキングと比較する。</li> <li>○ 自分で決めたランキングをもとに、資料の効果（何がわかるか・どうしてわかるか）をそれぞれまとめる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">資料3と4は並べてみることで何がわかるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">資料2がないと...</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じランキングでもそれぞれがどのような根拠でその順位にしたのかを明確にさせる。 ※ 児童の根拠を聞きながら、読み手側の視点と書き手側の視点の二手に分かれた意見が出ていることに気付くよう促す。</li> <li>○ 児童とのやりとりで、以下の点について自己決定させる。 ※ 視点別にグループ決めるよう伝える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような順で</li> <li>・個別か協働か</li> <li>・いくつ考えるか</li> <li>・使用するワークシート（ICT・プリント・教科書の書き込み等）</li> </ul> </li> <li>○ 根拠について、筆者側の視点で考えている児童と受け手側の視点で考えている児童を把握しておく。</li> </ul>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（各種ワークシート・発言）</li> <li>* 作業が難しい児童には、資料と本文との対応箇所を探させる。</li> </ul>

学習過程	児童の活動	教師のかかわり	評価規準（評価方法）*努力を要すると判断される児童への手立て
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体で資料の1～7の効果を全体で確かめる。</li> <li>○ 改めて資料を必要度から捉え直し、必要度順を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流してランキングを変更したくなった場合も、根拠をもっていれば可能とする。</li> </ul>	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">資料があると、筆者の主張がよりくわしくわかる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul> <p>わ…わかったこと が…がんばったこと と…友達の考えの良いと思ったところ も…もってみたいこと え…選んだ方法は適切だったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習は、単元の後半（6/10）で環境問題についての資料選びをするときの参考になることを意識させる。</li> </ul>	<p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、論の進め方を考えようとしている。（発言・WS）</li> </ul>

Memo

## <観点別学習状況の評価の進め方>

### (1) 知識・技能(2)アの評価の進め方

○ Aの具体的な姿の例

これまでに学習した説明的文章の構造や原因と結果の関係を想起し、筆者の主張を把握することができ、具体的に寄らず適切に150字以内の要旨にまとめることができる。

○ Cへの支援

教師と一緒に内容を確認しながら、繰り返し記述されるキーワードを見付けさせる。また、文章構造を「初め」「中」「終わり」に分け、双括型であることを確認する。筆者の主張を表す文章に線を引かせたり、全体交流で分かったことを記入させたりして、要旨をまとめさせる。まとめた要旨の意味が理解できるように音読をさせ、自分の言葉で説明し直す活動を取り入れる。

### (2) 知識・技能(3)オの評価の進め方

○ Aの具体的な姿の例

学校図書館などで自然環境や環境問題について書かれた本を読み、友達に感想を伝えている。さらに、自分が解決したい問題を見付け、取り組みが必要な方法についてさらに調べるなど、読書の幅を自ら広げている。

○ Cへの支援

教師と一緒に自然環境や環境問題を取り扱っている本を確かめていく。児童と読みやすそうな数冊を選び、内容を少しずつ読み、児童の過去の体験やもち合わせている知識などを確かめながら、解決したい問題を焦点化する。

### (3) 思考・判断・表現B(1)エの評価の進め方

○ Aの具体的な姿の例

自然環境を守るための取り組みについての作文を書くときに自らの設定した環境問題に対応した資料を選び、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

○ Cへの支援

自分が解決したいと思う環境問題とそれに関する資料を教師と一緒に見付ける。既習単元「文章に説得力をもたせるには」での学習を想起させ、書きたいことを「主張」と「根拠」に分けながら、資料を添付すべき場所を確かめる。

### (4) 思考・判断・表現C(1)ウの評価の進め方

○ Aの具体的な姿の例

いずれの資料も読み、その効果を書き手側、読み手側の両面から考えて分かりやすく表現し、説明文に資料を添付することのよさに気付いている。

○ Cへの支援

資料の読み取り方や、この資料がなかったら分かりにくくなることはないか、等を教師と一緒に考える。資料があることのよさを確認したり、友達との交流で分かったことを記入させたりして、資料の効果を考えられるように支援する。

### (5) 主体的に学習に取り組む態度の評価の進め方

○ Aの具体的な姿の例

粘り強く文章と図表などを結び付けるなどして読み、学習課題を意識して友達の考えや書いた文章のよさを伝えようとしたり、より分かりやすく資料の効果についてまとめようとしたりしている。

○ Cへの支援

教師と一緒に資料から読み取れることを声に出させるなどしながら、その記述は本文のどこに書いてあるのかを読み取れるように支援する。

## 第3学年 社会科学学習指導案

日 時 令和7年11月7日（金）第5教時  
児 童 3年1組 27名  
指導者 教諭 古谷賢一

### 1. 単元名 「火事からまちを守る」（9時間扱い）

#### 2. 単元の目標

- 消防署の働きについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、具体的な資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 消防署など関係機関の相互の関連や、人々の生活との関連、そこに従事する人々の働きについて考え、考えたことを表現する力を養う。
- 消防署の働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、地域社会の一員としての自覚を養う。

#### 3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 消防署の分布や、消火栓や火災報知器、消防水利、消防団倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通信司令室を中心とするネットワークなどについて見学・調査したり地図などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、消防署や地域の人々の諸活動を理解している。</li><li>・ 調べたことを白地図や関係図にまとめ、消防署を中心に警察署など関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火事などの防止に努めていることを理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 消防署の分布や、消火栓や火災報知器、消防水利、消防団倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通信司令室を中心とするネットワークなどに着目して、問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。</li><li>・ わかったことを関連付けたり、総合したりするなどして消防署を中心とするさまざまな関係機関の連携や従事する人々の働きを考え、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断して、適切に表現している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の人々の生命や財産を脅かす火災から、安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li><li>・ 学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしている。</li></ul>

#### 4. 単元について

本単元は、地域社会における防災の仕組みに着目し、特に火災に関する危険やその対応について学ぶことを通して、安全な暮らしを支える人々の働きや、地域のつながりの大切さを理解することを目的とする。子どもたちは、消防署や消防士の仕事、火災を未然に防ぐための取り組み、火災が起きたときの連携の仕組みなどを調べたり考えたりすることで、自分たちの生活と地域社会とのかかわりを実感していく。単元の系統としては、2年生までに学んできた自分の生活にかかわる人々の仕事や施設への理解を基盤とし、本単元ではその視野を地域社会の安全維持という側面へと広げる。さらに、この学習を踏まえて4年生以降の「地域の防災」や「災害と復興」に関する学びへとつなげていくことが期待される。

本単元では、火災という身近な災害を通して、子どもたちが防災への意識を高めるとともに、地域の人々が協力して安全な社会を築いていることに気付き、自分もその一員であるという主体的な意識を育むことをねらいとしている。そのために、実際の消防施設の見学や、地域の消防士との交

流、家庭での火災対策の確認など、体験的・探究的な学びを重視し、単なる知識の習得にとどまらない実感を伴う学習を目指している。また、火災という題材が不安や恐怖につながることもあるため、児童の感情に寄り添った丁寧な指導を心がける。

本単元における社会科の「見方・考え方」は、「地域の安全を守るしくみ」や「人々の役割と協力」といった視点で地域社会をとらえ、多様な資料や体験をもとに、それらがどのように機能し、結び付いているのかを考察する力を養う点にある。防災という視点でまちの構造や人々の行動を見直すことで、子どもたちは社会の中での課題とその解決のための取り組みに目を向けるようになると考える。

学習の過程としては、まず火事の恐ろしさや実際に起きた火災の事例にふれ、なぜ火事が起きるのか、どうすれば防げるのかという問いをもとに、消防署や消防士の仕事、地域の防災設備のしくみについて調べていく。その後、見学やインタビューなどの活動を通して、防災に関わる人々の思いや工夫に気付き、自分たちにはできることを考える学習へと発展していく。最後には、学んだことをもとに家庭や学校での防災行動を見直すことで、学びを身近な生活に生かす実践的な理解へとつなげていきたい。

## 5. 児童の実態

児童はこれまで、「わたしたちのまちと市」の学習で、副読本「わたしたちの函館」やグーグルマップなどの情報をもとに、函館市の土地利用や公共施設などの場所を白地図に表したり、その特徴について考えたりする学習に取り組んできた。そして、前単元「はたらく人とわたしたちの暮らし」の学習では、スーパーマーケットや水産食料品工場などの見学で見たり聞いたりしたことをもとに、自分で設定したテーマについて追究する学習に取り組んできた。

そこで、本単元では身近な安全を守る人々の仕事に着目し、自分で追究する課題を設定したのち、実際の見学や調べ学習などで情報を集め、その集めた情報を活用しながら自らの生活に生かすことができることについて考えさせたい。

## 6. 本研究とのかかわり

本単元では、研究主題である個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実につなげるため、複線型を取り入れている。本時では、主発問について、これまで学んだことから考えを整理し表現するにあたり、生徒が「個別、ペア、グループ」の3つから手段を選び、まとめていく。自らが学びの手段を選ぶことで主体性を引き出すとともに、わかったことを関連付けたり総合したりするなどして消防署を中心とするさまざまな関係機関の連携や従事する人々の働きを考え、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断して、適切に表現する力などを育みやすい環境を設定するよう努めている。

## 7. 単元の計画

時	目標と主な学習活動（・）	【評価規準】（方法） （○…「評定に用いる評価」、…「学習改善につなげる評価」）
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">め 火事が起きたらどうなるか、そうぞうしてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の体験を振り返ることを通して、火災の特徴について話し合う。</li> <li>・市内の消防署や出張所の分布図を見て、それらが市内に多数ある理由を考え、話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">火事がどこで起きてもすぐに出動できるように消防しょは市内にたくさんおかれている。</div>	<b>【思考・判断・表現】</b> ・市内の消防署の分布図を読み取り、市内に多数ある理由を考え、表現している。（発表・ノート）
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">め 火事から学校やまちを守るしくみを調べるには、どうすればよいだろう。</div>	<b>【思考・判断・表現】</b> ・火が発生した時の消防署の対応を取り上げて学習問題をつくり、表現

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災現場の写真を見ながら、消火活動について調べたいことを出し合い、学習問題をつくる。</li> </ul>	<p>している（発表）。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>○ 消防署のはたらきを調べる学習問題について予想し、学習の見通しを立てて主体的に追究しようとしている。（発表・ノート）</p>
<p><b>【学習問題】</b></p> <p>消防しょは、どのようにして火事から学校やまちを守っているのだろう。</p>		
3 4	<p>め 消防しょの人たちは、どのような仕事をしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防自動車や消火活動で使われる道具を見学し、早く消火するためのくふうを調べる。</li> <li>・消防署の仕事の時間割や、1日の仕事について調べる。</li> <li>・消防署の仕事のくふうについて考える。</li> </ul> <p>※ 消防署見学</p> <p>すぐに消火にかけつけるためのくふうや、火を消すための車や道具がある。1日24時間、火事にそなえている。</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>・消防署を訪ね、消防自動車や設備などを調べたり、消防署員の日常的な仕事や勤務体制などをインタビューしたりして、必要な情報を集めている。（行動観察・ワークシート）</p>
5	<p>め 119番の電話は、どのようなしくみになっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・119番の電話による通報が、どこにつながるのか調べる。</li> <li>・通信指令室がどのような関係機関と連携するのか調べる。</li> <li>・通信指令室の役割について考える。</li> </ul> <p>119番のしくみによって、けいさつしょや消防団などと協力しながら早く消火することができる。</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>○ 119番の通報の仕組みを捉え、緊急時における関係機関との連携や協力について理解している。（発表・ノート）</p>
6	<p>め 学校では、どのように火事にそなえているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の消防設備の場所を調べ、それぞれの消防設備が置かれている理由を考える。</li> <li>・設備のほかに、学校での消防の取組を調べる。</li> </ul> <p>学校にはさまざまな消防せつびや消防計画がある。</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>○ 学校の消防設備について、設置場所や役割を調べるとともに、学校は消防計画をつくり火災に備えていることを理解している。（発表・ノート）</p>
7	<p>め わたしたちの地いきでは、火事に対して、どのようなそなえをしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の消防設備を調べて、それらの場所を白地図に書き込む。</li> <li>・消防団などの人々の取組について調べる。</li> <li>・火事の発生を予防するための取組について話し合う。</li> </ul> <p>地いきには多くの消防せつびがあり、消防団の人などの活動で火事から守られている。</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>○ 地域の消防設備について、設置場所や役割を調べるとともに、消防団など地域の人々は消防署と協力して火災に備えていることを理解している。（発表・ノート）</p>

8	<p>め 消防しょは、どのようにして火事から学校やまちを守っているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題と調べたことをふり返り、関係図にまとめる。</li> <li>・関係図を見て、消防活動について標語にまとめ、理由について発表し合う。</li> </ul> <p>消防しょは、さまざまな人と協力しながら火事にそなえている。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 火事からまちを守るはたらきについて、関係機関の連携を中心に関係図にまとめ、大切だと考える内容を標語に表現している。（発表・ワークシート）</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習したことや学び方をふり返り、これからの学習に生かそうとしている。（発表・ワークシート）</li> </ul>
9 本時	<p>め 火事から自分やまちを守るために大切なことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火事から自分の身の安全や地域の安全を守るために、できることを話し合う。</li> <li>・自分が最も大切と考えることを、理由とともに発表し合う。</li> </ul> <p>一人一人の心がけと行動がまちの安全を守ることにつながる。</p> <p>日ごろのくんれんや点けんが、自分の身を守る。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会の一員として自分たちにも協力できることや、自分自身の安全を守るために心掛けるべきことを選択・判断して表現している。（発表・ノートまたはスライド）</li> </ul>

## 8. 本時の学習（9／9）

### （1）目標

- ・地域社会の一員として自分たちにも協力できることや、自分自身の安全を守るために心掛けるべきことを選択・判断して表現することができる。

【思考・判断・表現】

### （2）展開

学習過程	児童の活動	教師のかかわり	評価規準（評価方法）*努力を要すると判断される児童への手立て
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習を振り返る。</li> <li>○ めあて</li> </ul> <p>火事から自分やまちを守るために大切なことは何だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にまとめた関係図をもとに振り返る。</li> </ul>	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 火事から自分の身の安全や地域の安全を守るために、できることを考える。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;">学校の消防せつびについて知っておくこと</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;">ひなん訓練をしんけんに取り組むこと</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;">火が消えたかどうがしっかりたしかめること</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめる方法と学習形態を選択する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめる方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタル（スライド、ドキュメント等）</li> <li>②ノート・紙</li> </ol> </li> <li>・学習形態 <ol style="list-style-type: none"> <li>①個別／②ペア／③グループ</li> </ol> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別／ペア／グループなど、自分に必要な学習形態を選ばせる。</li> <li>・紙（ノートを含む）とデジタルで、まとめる方法を選択できるようにする。</li> <li>・これまでの学習内容を蓄積したノートやスライドを保存しているクラスルーム等を参照するようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>①できることを決めるための交流</li> <li>②自分の考えを深めるための交流</li> </ol> </div> <p>*交流を通して、他者の考えを参考にする。また、教師が問い掛けることで、自己の考えを引き出す。</p> <p>*これまでの資料をふり返り、火事から自分やまちを守るために大切なことを選択できるようにさせ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が最も大切と考えることを、理由とともに発表し合う。</li> <li>○ 友達の発表を聞いて、内容のよさや友達の考えに対する自分の考えを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習班で交流をし、時間があれば全体交流もしくは自由交流の時間とする。</li> <li>・伝え合う視点について提示する。 (よさ、自分はどうか考えるか)</li> </ul>	<p>る。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会の一員として自分たちにも協力できることや、自分自身の安全を守るために心掛けるべきことを選択・判断して表現している。(発表・ノートまたはスライド)</li> </ul>
終  末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめ</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の心がけと行動がまちの安全を守ることにつながる。</li> <li>・日ごろのくんれんや点けんが、自分の身を守る。</li> </ul> </div>		

## 第6学年 算数科学習指導案

日時 令和7年1月11日(火) 第5教時  
児童 6年1組 23名  
指導者 教諭 藤田 駿

### 1. 単元名 「順序よく整理して調べよう」(6時間扱い)

### 2. 単元の目標

順列や組み合わせについて、落ちや重なりのないように、起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を理解し、事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察する力や筋道を立てて考える力を養うとともに、数学的表現を用いて落ちや重なりのないように調べた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用したりする態度を養う。

### 3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
順列や組み合わせについて、落ちや重なりのないように調べるには、ある観点に着目したり、図や表などにかき表したりするとよいことを理解し、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる。	事象の特徴に着目し、順列や組み合わせについて、落ちや重なりのないように図や表を適切に用いたり、名称を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道立てて考えることができる。	順列や組み合わせについて、図や表などを用いて工夫をしながら、落ちや重なりがないように調べた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

### 4. 単元について

本単元では、身近な事例(リレーの走順や試合の組み合わせ、パスワードなど)から、並べ方(順列)や組み合わせ方を調べる活動を通して、事象を図や表に表して整理し、関係や規則性に着目して効率的に調べる力や生活に活用できる態度の育成を図る。

そのために、低・中学年での順序や表を使った整理の学習をもとにして、本単元では落ちや重なりを気に付けながら調べることで「順列」と「組み合わせ」を区別しながら系統的に考えを深められるようにする。

また、体育などの授業や日常生活の経験と結び付けながら算数の有用性や規則性の面白さを実感させたい。

### 5. 児童の実態

基本的に算数を苦手と感じている児童が多い。また、意欲をもって問題解決に向かうことのできる児童が少なく、学力差も大きい。

算数の学習を苦手と感じている児童は、個人思考の際の動き出しに大きな差があるが、ペアやグループ活動等の中に仲間に頼れる場を設定することで、少しずつ自信と意欲をもって算数に取り組めるようになってきている。

算数が得意でいろいろな考えを出することができる児童もいるが、全体交流が、その児童だけの学びの場となってしまうこともある。

本単元は生活の中で経験のある題材を使って具体的に考えることができるので、自分で問題を解決する喜びを感じさせられるようにしたい。また、算数の学習が得意な児童には、筋道を立てて説明する場面を設定することで、いろいろな意見にふれながらよりよい方法を見つけることによさについて感得させたい。

## 6. 本研究とのかかわり

本時の学習では、問題発見・解決能力の育成を図るため、問題解決に入る前に予想と見通しを位置付けている。予想を立てたうえで、4チームの組み合わせの時には「A対B」と「B対A」は「重なり」とおさえることで、どうすればよりよく問題を解決できるのか、既習内容を想起しながら問題解決に向かうようにしたい。

また、1人1台端末の活用においては、追求の場面でCanvaを活用して自分の考えを表現したり、他の児童と相互参照しながら考えを深めたりできるようにしていく。児童が考えたり、表したりする際に仲間の考えや表し方を参考にすることで個別最適な学びにつながっていくと考える。

## 7. 単元の計画

時	目標と主な学習活動（・）	【評価規準】（方法） （○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）
1	<p>並べ方について、落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ちや重なりがないように、4人の走る順序を考える。</li> <li>・記号化して考えたり、表や樹形図を用いて考えたりすることを学ぶ。</li> </ul> <p>並べ方を調べる時は、表や図を使って順序よく調べるとよい。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人目を固定して考えたり、表を使って考えたりしている。（観察、Canva、ノート）</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察、Canva、ノート）</li> </ul>
2	<p>問題にあわせて落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの数字で2桁の整数が何通りできるか調べる。</li> <li>・メダルを3回投げたときの表と裏の出方が何通りあるか調べる。</li> </ul> <p>図や表を使って順序よく調べればよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順列について、落ちや重なりがないように順序よく整理して調べることができる。（観察、Canva、ノート）</li> </ul>
3 本時	<p>組み合わせ方について落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4チーム総当たりの場合の試合数の調べ方を考える。</li> <li>・「重なり」に気を付けなければならないことを確認する。</li> </ul> <p>組み合わせ方を考える時は、重なりに気を付けて、表や図を使って調べるとよい。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事象の特徴に着目し、組み合わせについて、落ちや重なりがないように、図や表を用いて順序よく筋道を立てて考え調べている。（Canva、ノート、発言）</li> </ul>
4	<p>練習問題に挑戦しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組み合わせの練習問題に取り組む。</li> </ul> <p>組み合わせの問題は重なりに気を付けて、表や図を使って調べるとよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「落ち」「重なり」といった言葉や「樹形図」について理解している。（観察）</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人目を固定して考えたり、表を使って考えたりしている。（観察、Canva、ノート）</li> </ul>

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>組み合わせの練習問題に取り組む。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を適切に活用して筋道を考え、問題を解決している。(Canva, 観察)</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を生活に生かそうとしている。(観察, ノート)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のもつめ「たしかめよう」や「つないでいこう算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な問題を解決することができる。(観察・ノート)</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。(観察・ノート)</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。(観察, ノート)</li> </ul>

## 8. 本時の学習 (3 / 6 時間)

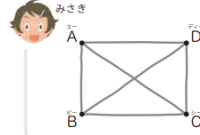
### (1) 目標

- 事象の特徴に着目し、組み合わせについて、落ちや重なりがないように、図や表を用いて順序よく筋道を立てて考え、調べている。 【思考・判断・表現】

### (2) 展開

学習過程	児童の活動	教師のかかわり	評価規準 (評価方法) *努力を要すると判断される児童への手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習を確認する。</li> <li>○ 問題を把握する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>I</b> A、B、C、Dの4つのチームで、バスケットボールの試合をします。 どのチームも、ほかのチームと1回ずつ試合をするとき、どんな対戦があるか調べましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何通りかを予想する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 40%;"> <p>並べ方の問題と同じように24通りかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 40%;"> <p>24通りよりは少ないんじゃないかな。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ どのような対戦がありそうかつかむ。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 40%;"> <p>Aから順番に試合を組んでいくと…。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 40%;"> <p>A-B, A-C, A-D, …。なんだか、わからなくなってきた。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content;"> <p>樹形図を使えば整理できたよね。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「落ち」「樹形図」などの言葉を確認する。</li> <li>・児童が自分事の問題をもてるよう提示の仕方を工夫する。</li> <li>・これまでの学習をもとにして、順序よく、どんな組み合わせがあるかを想起させ、A-BとB-Aは同じ場合として扱ってよいかどうかの判断を促す。</li> </ul>	

	<p>○ 重なりがあることに気付く。</p> <p>あれ、A-BとB-Aって同じことじゃない？</p> <p>A-BとB-Aが同じなら、樹形図を使って順序よく並べたあとに、手順を加える必要があるな。</p> <p>○ 見通しをもつ。</p> <p>残りの重なりを調べよう。</p> <p>樹形図は使いそうだな。</p> <p>試合の時に何か分かりやすい表を見たことがあるな。</p> <p>○ めあて</p> <p>組み合わせ方について、落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• A-BとB-Aのような組み合わせのものを「重なり」ということを認識し、それらは1つのものとして考えることを確認する。</li> <li>• これまで、整理するためにどのような方法を用いてきたのかを問う。</li> <li>• 前時までの学習は「並べ方」で、本時は「組み合わせ方」であることを意識させる。</li> </ul>	<p>* 予想がつかない児童には、ノートなどを確認させる。</p>
<p>展</p> <p>開</p>	<p>○ 個人・ペア・少人数・先生に説明するなどの複線型の学習を選択し活動する。</p> <p>○ ICTを活用し、考えを「Canva」に投稿する。</p> <p>試合の表を作ってみようかな。</p> <p>樹形図を使うとAから始めて…</p> <p>全部書き出してから考えてみようかな。</p> <p>同じものがあるぞ。</p> <p>○ 問題の答えが何通りか確認する。</p> <p>答えは6通りだね。</p> <p>○ 全体で共有する。</p> <p>今回は「同じ意味のもの」があった。</p> <p>樹形図はここでも使えた。</p> <p>表を使うと便利だったな。</p> <p>樹形図はここでも使えたけれど、「重なり」に気を付けないとだめだな。</p> <p>チーム数が増えても、表を使うと分かりやすいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 落ちや重なりがないように整理するためにどのような方法を用いるかを意識させる。</li> <li>• 樹形図、リーグ表などを選択できるようにカードを用意する。</li> <li>• 学びの進捗を確認する。</li> <li>• 自分の考え方の説明を書き込むように促す。</li> <li>• 同じ組み合わせに気付いた児童に注目させる。</li> <li>• 同じ組み合わせに気付いていない児童やペア、グループがいた場合には最初のやり取りを思い出させる。</li> <li>• チーム数が増えても同じように考えられるか考えてもよいことにする。</li> <li>• それぞれの選択した方法を価値付ける。</li> </ul>	<p>* AとBだけだったらどうなるか単純化して「A-B」と「B-A」は同じになることを再確認する。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>○ 事象の特徴に着目し、組み合わせについて、落ちや重なりがないように、図や表を用いて順序よく筋道を立てて考え調べている。 (Canva, ノート, 発言)</p>

	<p>チーム数が増えると、みさきさんの考えの方が分かりやすそうだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム数が多くなっても考えると効率的なものはどれかにも触れる。</li> <li>・落ちや重なりなく簡略して表すことができる方法としてみさきさんの考えにも触れる。</li> </ul> 	
<p>終末</p>	<p>○ まとめ</p> <p>組み合わせ方を考える時は、重なりに気を付けて表や図を使って調べるとよい。</p> <p>○ 適用問題（練習問題1）に取り組む。</p> <p>○ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のふり返りを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに対しての答えを自分の言葉でまとめる。</li> <li>・統合的に考えさせるために、チームを作る問題と同じ問題かを問う。</li> <li>・授業を通しての気付きや問題解決したことをどのように日常生活に生かせるかなどの視点で書くように指示する。</li> </ul>	<p>* 今回は「重なりに」気を付けたことを確認する。</p>

### (3) 板書計画

**1** A、B、C、Dの4つのチームで、バスケットボールの試合をします。  
どのチームも、ほかのチームと1回ずつ試合をするとき、どんな対戦があるか調べましょう。

組み合わせ方を考える時は、重なりに気を付けて表や図を使って調べるとよい。

組み合わせ方について、落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。

「A-B」と「B-A」は同じ意味！

〈気づいたこと〉

- ・今までのやり方でもできた。
- ・今回は「重なり」に気を付けないと
- ・表に表すと分かりやすい
- ・みさきさんのやり方は便利

〈予想〉どんな方法があるかな？

- ・樹形図                      ・順番に
- ・全部書く
- ・トーナメント表

### 3 研究の成果と課題（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの表記は、授業改善Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのそれぞれの成果と課題）

#### ○ 複線型の授業づくり

##### （1）ねらいを踏まえた学習課題の提示について

成果	<p>Ⅰ 「資料の使われ方を話し合い、筆者の考えをとらえよう」という学習課題において、子どもは、構成メモの作り方を深く理解し、そのメモをもとに作文を書く活動に生かすことができた。</p> <p>Ⅱ 学習課題を提示した際に、解決しようと意欲をもつ子どもが多く、これまで学習してきた「火事」と自分とのつながりを考えようとしていくことができていた。</p> <p>Ⅲ 子どもが見通しをもって問題解決に向かえるよう導入の学習を丁寧に進めたことで既習事項と学習課題を結び付けながら進めることができた。また、どの子も解決場面にスムーズに移行し、交流も活発だった。</p> <p>○ 本時のねらいに迫れるよう学習課題を意図的に工夫して提示することによって、子どもは課題を深く理解したり、学習のつながりを丁寧に想起したりし、課題解決への意欲を高め、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。その結果、解決場面へスムーズに移行し、交流も活発に行われた。</p>
課題	<p>Ⅰ 子どもがより主体的に作文を書くためには、総合的な学習の時間での調べ学習など、教科等横断的なカリキュラムの工夫を通して、書く活動における主体性を高める必要がある。</p> <p>Ⅱ 「火事から身を守る」ことを相談している子どもが多く、「火事を起こさない」という視点で話し合うなど、学習課題を焦点化する必要があった。</p> <p>Ⅱ 「自分だったらどうするか」という動機付けについて導入を工夫をする必要があった。</p> <p>Ⅲ 導入段階に時間が取られすぎたため、終末の統合的考察や振り返りに当てる時間、子どもの考えを表現したり、共有したりする活動時間が圧迫されてしまったので工夫が必要だった。</p> <p>● 子どもが主体的に学ぶためには、学習課題を焦点化し、ねらいを明確にするとともに、「自分事」として捉えられる導入の工夫を図る必要がある。また、授業構成や時間配分を見直し、終末における統合的な考察や振り返り、子どもの考えを表現・共有する活動の時間を十分に確保することが求められる。</p>

##### （2）授業のねらいに合わせた複線型の授業の実践と検証について

成果	<p>Ⅰ 授業のねらいに対して、子どもの実態を十分に配慮したうえで授業を計画したことにより、授業のねらいをよりの確に捉えた指導を行うことができた。</p> <p>Ⅰ 教師の丁寧な見取りに基づく支援が効果的であった。</p> <p>Ⅰ 子どもが読み手・書き手としての立場を意識的に切り替えることができるよう教師が支援したことが、子どもの思考を支えるうえで有効であった。</p> <p>Ⅱ 日常の授業で、複線型の授業を意識した学習活動を積み重ねていたことで、本時でも、子どもたちがスムーズに学び方を選択することができていた。</p> <p>Ⅱ 「どのように解決したらよいか」ということを、対話を通して考えることができるようになり、主体的・対話的な学びができるようになった。本時では、「もう一度話して」など、交流する姿が見られた。</p> <p>Ⅲ 複線型の学習形態を取り入れたことで、子どもが自分の躓きや不安感をすぐに解消することができた。また、交流場面では、互いに教え合ったり質問し合ったりする姿が多く見られ、個別最適な学びを実現できていた。</p>
----	--

	<p>○ 本実践では、授業のねらいに即した複線型の授業を構想し、子どもの実態に応じた学習活動の選択を可能にした。その結果、子どもは自らの理解状況や課題意識に応じて学び方を選択し、主体的に学習に取り組む姿が見られた。また、教師による丁寧な見取りに基づく支援により、子どもの思考が深まり、学習のねらいに迫ることができた。さらに、対話を取り入れた学習過程を通して、互いに考えを伝え合い、修正し合う活動が活性化し、複線型の学習形態が個別最適な学びと協働的な学びの実現に有効であることが確認された。</p>
課題	<p>I 複線型の授業づくりに向けて、その基盤となる系統的な指導の在り方を明確にすることが必要である。</p> <p>I 複線型の授業実践において、授業者の的確な見取りと状況に応じた柔軟な判断が求められることから、今後も継続的に実践を重ね、指導力を高めていく必要がある。</p> <p>II ペアやグループでの学び方が身に付いていることで、複線型の授業において学び方を主体的に選択できるようになるため、発達段階に応じて、段階的にどのように学び方を身に付けていくかについて検討する必要がある。</p> <p>III ICTを活用しながら、子どもが図や式を言語化して表現したり、練り合ったりする場を複線型の学習の中に設けることで、より一層学びが深まるのではないか。</p> <p>● 授業のねらいに合わせた複線型の授業を実践した結果、子どもの主体的な学びを促す効果が見られた一方で、その有効性を十分に発揮させるためには、系統的な指導の在り方を明確にするとともに、子どもの学習状況を的確に見取り、柔軟に判断する授業者の指導力を高めていく必要があることが明らかとなった。また、発達段階に応じた学び方の定着や、複線型の授業の効果の継続的な検証に加え、ICT活用においても言語化や対話を位置付けるなど、学びを深化させる工夫が求められる。</p>

### (3) 各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証について

成果	<p>I 友達との交流や教師とのやりとりを意図的に取り入れることで、子どもが言葉を用いて表現し、言葉を大切にしながら思考を深める学びの場を実現することができた。</p> <p>I 子どもが主体的に選択・探求できる場面を設定することで、教科書の本文および資料に繰り返し根拠を求めながら考える姿が定着した。</p> <p>II 情報活用能力の育成について、学習を積み重ねたもの（ノート、板書、スライドなど）から、自分が必要な情報をすぐに探し出せる環境を整えることができた。</p> <p>III 教科の特質である問題発見・解決のサイクルにおける複線型の授業では、子どもがそれぞれ選択した多様な解法を全体で共有し、比較検討する活動を通して、解法を多面的にとらえる態度が養われるなど、十分な効果があった。</p> <p>○ 各教科の特質を踏まえた複線型の授業を実施した結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科では、自ら言葉で考えを表現し、教科書や資料に基づき根拠を確認しながら考える力を育むことができた。</li> <li>・社会科では、ノートや板書、スライド等の学習記録を活用する仕組みを整えることで、必要な情報を自ら取り出し活用する能力が身に付いた。</li> <li>・算数科では、多様な解法を全体で共有・比較検討する活動により、問題を多面的にとらえる思考力が養われ、教科特有の学習効果の向上が確認された。</li> </ul> <p>以上のことから、複線型の授業は子どもの主体的・協働的な学習態度の向上と、多面的な思考力の育成に効果的であった。</p>
----	---

課 題	<p>I 学びの着実な「転移」に至るためには、他教科や領域等、実生活での活用を見据えた取り組みを、あらかじめ教師が見通しておく必要がある。</p> <p>II 本時で、「これまで学習したことを振り返る」ことや「自分が考えたことに理由をつける」という指示を失念してしまったことから、これまでの学習に立ち返って考える子どもが少なかった。</p> <p>II ICT機器を活用し、クラスルーム等で振り返りを行うことができる工夫が必要であった。</p> <p>II 子どもが主体的に学んでいるときに、教師がどの程度、子どもに声掛けや支援をするとよいか考える必要があった。</p> <p>III 算数が苦手な子どもも自走できるよう、算数の基盤となる知識・技能の定着をどう図るか、また、限られた授業時間内で多様な方法を多面的に捉え価値付けまで収束させる時間をどう確保するかに難しさがあった。今後は、単元の後半に探究の時間を設けるなど、子どもがより自分なりの課題をもって学習を進められるよう工夫することが求められる。</p> <p>● 複線型の授業では、ICTや振り返りの工夫を授業計画の段階から具体的に計画するなど、子どもの主体的な学びを支援する仕組みを整備することが求められる。</p>
--------	--

#### 4 次年度の展望

今年度の研究を通して、子どもが1人1台端末を活用し、興味・関心や課題意識に応じて主体的に学習課題に取り組む「複線型の授業」を行うことで、国語科では構成メモや作文活動を通して、既習内容を活用しながら考えを表現する力が育まれ、社会科では学習記録や資料を活用して必要な情報を自ら取り出す力が身に付き、算数科では多様な解法の共有・比較により、多角的な思考力が養われた。また、意図的に設けた対話・交流活動により、子ども同士の学び合いなどが活発化するなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることができた。

一方で、統合的な考察や振り返りの時間が不足したり、授業者の柔軟な判断や具体的な授業計画が必要となったりするなど、課題も明らかとなった。

次年度に向けては、これらの成果と課題を踏まえ、研究計画に沿って、以下の視点で複線型の授業の実践と検証を進める。

第一に、令和7年度の研究内容に引き続き、各教科等の特質を踏まえ、子どもが「自分事」として課題に取り組めるよう学習課題を焦点化して導入段階の工夫を図るなど、複線型の授業のさらなる実践を通して検証を行う。

第二に、1人1台端末やクラウドを活用して、学習記録の共有と活用を通じた指導と評価の一体化を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

次年度は、3年計画の3年目であることから、研究仮説「複線型の学びを取り入れた授業を展開し、『主体的・対話的で深い学び』の視点に基づいて各教科等の特質に応じた学習過程の質的改善を図ることで、一人一人の子どもの主体性を引き出し、すべての子どもの確かな学力の向上に結び付けることができるであろう。」について、複線型の授業の効果を検証し、研究のまとめを行うこととしたい。

以上、令和8年度は、これまでの成果と課題を十分に踏まえつつ、複線型の授業のさらなる実践と検証を通して、子どもの学びの質を一層高めるための学習指導の在り方について、引き続き、研究を推進したい。

## 《参考文献・資料》

- ・小学校学習指導要領（文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（文部科学省）
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会）
- ・令和4年度小学校・中学校教育課程編成の手引き（北海道教育委員会）
- ・令和5年度小学校・中学校教育課程編成の手引き（北海道教育委員会）
- ・令和7年度 学校教育指導資料  
「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のためにⅡ（函館市教育委員会）
- ・令和6年度 学校教育指導資料  
「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のために（函館市教育委員会）
- ・令和5年度 学校教育指導資料「子どもに寄り添う指導・支援の充実」を目指して  
（函館市教育委員会）
- ・函館市教育振興基本計画 2018年度（平成30年度）～2027年度（令和9年度）  
（函館市教育委員会）
- ・「学び続ける力と問題解決 シンキング・レンズ，シンキング・サイクル，そして探究へ」  
（東京学芸大学教育学部教授 高橋純 2022）

### 【研究担当者】

#### 【研究員：言語能力育成部会】

森 紗 織（函館市立北美原小学校教諭）  
山 根 理津子（函館市立銭亀沢中学校教諭）  
渡 邊 香緒里（函館市立あさひ小学校教諭）

#### 【研究員：情報活用能力育成部会】

樋 田 総一郎（函館市立本通中学校教諭）  
佐 藤 由 子（函館市立本通小学校教諭）  
古 谷 賢 一（函館市立大森浜小学校教諭）

#### 【研究員：問題発見・解決能力育成部会】

武 田 秀 文（函館市立桔梗小学校教諭）  
森 永 道 也（函館市立高丘小学校教諭）  
藤 田 駿（函館市立万年橋小学校教諭）

#### 【担当指導主事】

言語能力育成部会：江 口 由 佳  
情報活用能力育成部会：寺 澤 春 佳  
問題発見・解決能力育成部会：佐々木 誠